

基本評価シート

様式

北海道 雨竜区域

(北海道空知総合振興局保健環境部環境生活課)

## 基本評価シート（ニホンジカ）

### 1. 事業の基本情報

事業名（※1）	北海道指定管理鳥獣捕獲等事業（ニホンジカ） 令和5年度（2023年度）エゾシカ指定管理鳥獣捕獲等事業委託業務（両 竜地域）		
都道府県名	北海道	担当者部・係名	空知総合振興局保健環 境部環境生活課自然環 境係
担当者名	押切 麻衣子	担当者連絡先	0126-20-0043 (6-450-2979)
捕獲実施事業者	特定非営利活動法人 EnVision 環境保全事務所 (認定を受けている)	予算額（※2）	198,199,000円
		予算額の内捕獲に要 する経費（※3）	98,729,000円

（※1） 交付金を用いて実施した事業名を記入。複数ある場合は、事業件名ごとに記入。

（※2） 予算額は、交付金の対象となる指定管理鳥獣捕獲等事業の全体予算を記入する。

（※3） 予算額の内、捕獲に要する経費は、平成28年度から適用される交付金所要額調書様式1-2「2  
指定管理鳥獣の捕獲等」の内訳を記入。その他にも、捕獲に要する経費がある場合は、別途加算  
する。

### ○令和5年度における生息等の状況及びこれまでの個体群管理の取組み

#### 〈指定管理鳥獣捕獲等事業の実績〉

事業目標 (目標頭数などの数値目標)	実施結果	
	捕獲頭数	目標達成率
10頭	3頭	30%

#### 〈生息等の状況及びその他の捕獲実績〉

推定生息頭数	特定計画管理目標	目標生息頭数
72万頭※ (個体数指数: 東部137、 北部121、中部107、南 部353)	東部: R8末に個体数指数50以下(H23を100) 北部・中部: R13末に個体数指数50以下(H23を100) 南部: R8末までに減少に転じさせる	設定していない
狩猟捕獲数	許可捕獲(有害)	許可捕獲(個体数調整)
34,396頭(R4)	58,581頭(R4)	52,012頭(R4)

※令和3年度推定生息頭数。東部（オホーツク、十勝、釧路、根室）、北部地域（空知、上川、留萌、宗谷）、中部地域  
(石狩、胆振、日高)の合計。南部地域（後志、渡島、檜山）は、これとは別に15万頭の間と推定

鳥獣関係統計より

○これまでの個体群管理の取組み（都道府県単独事業）

H9以降、道が策定した「エゾシカ保護管理計画」（H27以降「エゾシカ管理計画」）に基づき、狩猟期間の延長や可猟区域の拡大、雌ジカ捕獲制限の緩和、一斉捕獲の実施、モニタリングに基づく個体数指数を用いたフィードバック管理の推進等の対策を進めてきた。

2. 令和5年度指定管理鳥獣捕獲等事業の実施概要

項目	概要
事業背景・目的	<p>第二種特定計画である「北海道エゾシカ管理計画」において、指定管理鳥獣捕獲等事業について「エゾシカによる生物多様性への影響や被害等が深刻又は懸念される地域においては、指定管理鳥獣捕獲等事業による捕獲を必要に応じて計画的に実施する」としている。</p> <p>これに基づき、鳥獣保護区や自然公園など、市町村等による捕獲が困難な地域でエゾシカの捕獲を実施する。</p> <p>【選択欄】</p> <p><input type="checkbox"/> 特定計画の管理目標に不足する捕獲数を高密度地域で上乗せした。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 分布拡大防止を目的として生息域の外縁で捕獲を実施した。</p> <p><input type="checkbox"/> 効果的な捕獲手法の開発を行なった。</p> <p>※事業実施目的に最も近いものを1つ選択。</p>
人材育成の観点	<p><input checked="" type="checkbox"/> 人材を育成するための配慮、取組がなされている。</p>
実施期間	令和 5年 6月 6日 ~ 令和 6年 3月 15日 (※委託期間)
実施区域	<p>雨竜地域（雨竜郡雨竜地域）                      [暑寒別天売焼尻国定公園、雨竜沼鳥獣保護区（特別保護地区を含む）、オシラリカ鳥獣保護区]</p> <p>雨竜地域に位置する雨竜沼湿原は、暑寒別天売焼尻国定公園内に所在し、雨竜沼鳥獣保護区に指定されている高層湿原帯である。湿原は標高約850mに所在し、エゾカンゾウをはじめとする約150種の植物が生息し、景勝地として多くの登山客が訪れるが、近年、エゾシカの侵入に伴って植物の食害が加速し、年々湿原内の花の確認数が減少している。また、同鳥獣保護区内に設置した自動撮影カメラや多くの植物の食痕、足跡等の形跡から、エゾシカが湿原内に生息していることを確認しており、このまま放置した場合は湿原内の植物の壊滅的被害が予想されるため、捕獲区域とした。</p> <p>オシラリカ鳥獣保護区は、令和3年度に実施した越冬地調査において、雨竜沼湿原を利用するエゾシカが越冬している可能性が高いと示唆された。湿原の植生保全の為に、調査結果を生かし、捕獲を実施した。</p> <p>※1：実施区域の特徴も記入                      ※2：事業計画の地図がある場合は、図面を添付</p>

関係機関との協力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境省北海道地方環境事務所：希少種等の情報提供や捕獲事業の情報共有を図る。</li> <li>・空知総合振興局森林室：道有林内で実施する際の入林等手続き及び捕獲事業の情報共有を図る。</li> <li>・(地独)北海道立総合研究機構：捕獲手法や分析等の助言など効果的な事業実施に向けた連携を図る。</li> <li>・地元市町村等：地域住民への連絡周知や地元関係機関との調整、捕獲事業の情報共有を図る。</li> </ul>
事業の捕獲目標	<p>( 30%達成 )          = ( 3 実績値 ) / ( 10 目標値 )</p>
捕獲手法	<p>【銃猟】</p> <p> <input type="checkbox"/> 誘引狙撃                      <input type="checkbox"/> 巻き狩り                      <input checked="" type="checkbox"/> 忍び猟  <input checked="" type="checkbox"/> モバイルカリング              <input type="checkbox"/> 夜間銃猟  <input type="checkbox"/> その他 (                      )         </p> <p>【わな猟】</p> <p> <input type="checkbox"/> くくりわな                      <input type="checkbox"/> 箱わな                      <input checked="" type="checkbox"/> 囲いわな  <input type="checkbox"/> その他 (                      )         </p> <p>※1：各種猟法の定義は〇ページ参照、※2：複数チェック可</p>
捕獲個体の確認方法	<p> <input type="checkbox"/> 個体の身体の一部（耳、尾など）  <input type="checkbox"/> 写真（証拠写真は、捕獲者・捕獲個体・捕獲情報を記載したホワイトボード等を撮影することとし、またGPS機能付きのカメラ（スマートフォンを含む）で撮影し、データも併せて添付する。）  <input checked="" type="checkbox"/> その他（ 捕獲現場にて立会又は搬入確認                      ）         </p> <p>※複数チェック可。</p>
捕獲個体の処分	<p>捕獲個体の処分について</p> <p> <input type="checkbox"/> 全て焼却又は埋設を行っている。  <input checked="" type="checkbox"/> 一部、食肉等への活用を行っている。  <input type="checkbox"/> 一部、放置を認めている。         </p> <p>※複数チェック可</p>
環境への影響への配慮	<p>わなによる錯誤捕獲について</p> <p> <input checked="" type="checkbox"/> 錯誤捕獲の情報を収集している。  <input type="checkbox"/> 錯誤捕獲の実態は不明である。         </p>
	<p>わなによる錯誤捕獲の未然防止について</p> <p> <input checked="" type="checkbox"/> 錯誤捕獲の防止対策をしている。              （内容：常に監視を行い、他の鳥獣が囲いわなに侵入した際は、立ち去るまで待機を行う。）  <input type="checkbox"/> 錯誤捕獲の防止対策はしていない。         </p>
	<p>鳥類の鉛中毒等について</p> <p> <input checked="" type="checkbox"/> 鳥類の鉛中毒症例がない。  <input type="checkbox"/> 鳥類の鉛中毒症例が確認されている。         </p>
	<p>鉛製銃弾について</p> <p> <input type="checkbox"/> 全て鉛製銃弾を使用している。  <input type="checkbox"/> 一部、非鉛製銃弾を使用している。  <input checked="" type="checkbox"/> 全て非鉛製銃弾を使用している。         </p>

安全管理の体制	<p>捕獲実施に先立ち、受託者が作成する「捕獲作業計画」において、連絡体制や実施体制及び事故防止に向けた捕獲時の現地立ち入り規制体制等を記載させた。</p> <p>捕獲事業の実施にあたっては、予め捕獲場所、実施期間、及び捕獲手法について市町村等関係機関と調整を行った。</p> <p>捕獲事業の実施期間は、捕獲事業者であることを明確にした上で、必要に応じ関係者以外の立ち入りを規制した。</p> <p>また、従事者のみならず、地域住民等の第三者の安全の確保に努めるとともに、労働安全衛生法等関係法令に基づく措置を講じた。特に、本業務は高地での捕獲も含むことから、事前に天候等の情報を入手し、移動時も含めて事故等の無いよう十分な装備と計画のもと実施させた。</p>
捕獲従事者の体制	<p>【雇用体制】</p> <p>捕獲従事者数： 9人 (内訳)</p> <p>正規雇用者： 6人、期間雇用者： 3人 日当制： 0人</p>

### 3. 令和5年度指定管理鳥獣捕獲等事業の評価

#### ○指定管理鳥獣捕獲等事業の達成状況の評価について

1. 捕獲に関する評価及び改善点※	
【目標達成】	<p>評価：捕獲目標数は達成できなかったが、雨竜沼湿原での捕獲では、昨年度の反省を生かし、捕獲時期の調整を行うことで、湿原内での捕獲に繋げることが出来た。また、囲いわなの設置場所も事前の誘引状況から再度検討し、より誘引されている箇所へ変更し捕獲へ繋げることが出来た。</p> <p>オシラリカ鳥獣保護区での捕獲では、捕獲環境の変化があった際、柔軟に捕獲方法の変更を行い、事業継続した。</p> <p>また、R3年度の実施計画策定等事業の調査では、誘引用餌にビートパルプペレットを使用しヒグマを寄せ付けたことから、令和4年度よりルーサンペレットを使用しヒグマの誘引へ繋がらなかったことから今年度も活用し、雨竜沼湿原での捕獲において、ヒグマを寄せ付けずエゾシカの誘引に成功した。</p>
	<p>改善点：雨竜沼湿原では、エゾシカの利用時期が限られていることから、捕獲のスケジュール調整を行えるよう少しでも早期発注することが重要であると痛感した。</p> <p>オシラリカ鳥獣保護区での捕獲では、地域の情報と実際の捕獲の場面でのシカとの遭遇に乖離があり、事前の生息状況等の客観的情報収集不足を感じた。</p>
【実施期間】	<p>評価：雨竜沼湿原での捕獲は、昨年度の反省を生かし、捕獲時期の前倒しを行った結果、捕獲に繋げることが出来た。</p>
	<p>改善点：雨竜沼湿原での捕獲では、狙った時期に捕獲作業が行えるよう発注</p>

	<p>することが出来たが、実際のシカの利用は、6～7月が最も多いことから、調整次第で前半部分の捕獲回だけでも7月に行えた可能性あり。</p> <p>オシラリカ鳥獣保護区での捕獲では、林道状態から、除雪機を入れられなかったため、積雪直前の時期を設定したが、積雪前で餌付かず視認性も悪かった。</p>
<b>【実施区域】</b>	<p>評価：昨年度より雨竜沼湿原で捕獲事業を実施し、オシラリカ鳥獣保護区では初めて実施した。引き続き、湿原内におけるエゾカンゾウの食害が確認されており、エゾシカの被害が確認されていることから、捕獲区域として適切だと判断できる。</p> <p>オシラリカ鳥獣保護区については、令和3年度に行った調査で、湿原を利用するエゾシカの越冬地として示唆されているため、いち早く捕獲へ移行し被害を軽減させるためにも、捕獲場所としては適切だと判断できる。</p> <p>改善点：雨竜沼湿原においては、効率的な捕獲を行うという点では、捕獲個体の荷下ろしの問題があるため、多くの個体を捕獲することが難しい。被害を与えているエゾシカを直接捕獲し、被害を軽減させていくためには、捕獲個体の放置についても今後検討が必要。</p> <p>オシラリカ鳥獣保護区では、令和3年度調査でもシカの生息が確認され、地元からの情報でもエゾシカは多く、地権者からは森林被害あり等と聞いていたが、実際に餌へ誘引されるシカはなく、捕獲作業中の目撃や捕獲機会も少なかった。</p>
<b>【捕獲手法】</b>	<p>評価：雨竜沼湿原においては、昨年実施した銃猟は実施せず、囲いわなによる捕獲を実施した。</p> <p>昨年もエゾシカ1頭が囲いわなの中へ誘引されている様子が自動撮影カメラで撮影されていた。7月は湿原の花が咲いている時期であるが、そのような環境の中でも、小型の囲いわなへの誘引が可能であることが証明された。</p> <p>オシラリカ鳥獣保護区における銃猟については、捕獲期間中に林道の中腹部が崩壊したが、柔軟に手法変更（モバイルカリング→忍び猟）が出来た。</p> <p>改善点：オシラリカ鳥獣保護区にて、銃猟での実施で手法変更といった対応が出来たが、積雪直前の捕獲期間であったことから視認性が障壁となった。</p>
<b>2. 体制整備に関する評価及び改善点</b>	
<b>【実施体制】</b>	<p>評価：雨竜沼湿原は、7～8月が登山客の利用ピークであるため、町及び現地団体と連絡調整を行い、手法の検討や安全確保を行い実施した。</p> <p>オシラリカ鳥獣保護区における捕獲では、警察、ダム管理者、地権者、道道管理者への協議・調整及び町広報への掲載など周知も行き、安全に配慮して</p>

	<p>作業を実施することが出来た。</p> <p>改善点：雨竜沼湿原においては、現場が電波圏外や高地である環境であるため、発注者と受注者との緊急時の連絡体制や捕獲作業の把握など連絡調整体制を確実に構築させる必要がある。</p>
【個体処分】	<p>評価：雨竜沼湿原に接続する道路は登山道のみであり、車両でのアクセスができない。捕獲した個体は、放置を行うか、ドローンやヘリコプター等の運搬手段又は人力で下ろす必要があり、有効活用としては適さないことから一般廃棄物としての処分になる。処分は、昨年度事業において流れを整理したため、活用が可能である。オシラリカ鳥獣保護区における捕獲個体は、山からの荷下ろしの必要が無いことから、有効活用として個体を搬入した。</p> <p>改善点：雨竜沼湿原での捕獲個体は、地元からの要望により、湿原内での放置は出来ないことから、山から下ろす必要がある。そのため、安全管理上やコストの面からも現実的ではなく、湿原での効率的な個体数調整捕獲を行うには、放置が前提となるため、実施する場合は地元との調整が必要。</p> <p>オシラリカ鳥獣保護区においては、捕獲機関が最寄り食肉処理場の繁忙期と重なったため、事前に搬入先とも調整が必要であった。</p>
【環境配慮】	<p>評価：雨竜沼湿原における囲いわな設置場所については、希少種や湿原の状況を把握している地元団体へ聞き取りの上、希少種や固有種が少なく設置による踏圧からの回復の早い場所を選定した。</p> <p>オシラリカ鳥獣保護区においては、捕獲場所周辺について、頻度は高くないが、工事やダム管理等の利用があるため捕獲個体は、原則持ち帰りとし、残置は前提としなかった。</p> <p>改善点：両区域では、同様の配慮を継続する必要があり、植生や生態系もだが人の利用についても配慮する必要がある。</p>
【安全管理】	<p>評価：警察、ダム管理者、地権者、道道管理者への協議・調整及び町広報への掲載、入口等での注意看板設置など周知も行い、安全に配慮して作業を実施することが出来た。</p> <p>当日の保安要員配置、捕獲従事者同士の事前打ち合わせ、受発注者間の情報共有などに加え、事故防止のため改めて安全確認を行うことで安全管理体制を確保した。</p> <p>改善点：湿原内での捕獲は、諸条件が厳しいため、新たな捕獲手法を試験的に導入する場合は、適宜新たに適切な安全管理体制を構築する必要がある。</p>
<p>3. その他の事項に関する評価及び改善点</p> <p>雨竜沼湿原は、周囲を山に囲まれた盆地地形の中に位置し電波圏外であることから、囲いわなの開閉作業は現地の観察ポイントから直接観察して遠隔で開閉を行った。そのため、湿原内</p>	

の滞在が必須となり、多くの時間と労力を費やすこととなり、季節的なエゾシカの生息状況からも柔軟なスケジュール変更ができなかった。また、湿原へ登った後、急な天候悪化が原因となり捕獲に支障をきたすこともあるため、現場に滞在せずに現地の状況（シカの誘引状況や天候等）を把握できる仕組みの導入について検討が必要である。現場で待機せずに困りわな内の様子がカメラ等で確認でき、遠隔で檻を落とすような仕組みを確立できれば高地での捕獲がより少ない労力で実施可能となり、現地で観察を行う場合でも麓で湿原の状況の確認ができれば、スケジュール変更等の柔軟対応も可能であると考え。また、スケジュール変更を少しでも可能にするため、捕獲回の前半だけでも7月下旬頃に実施出来るとより捕獲機会を得られると考えられる。

オシラリカ鳥獣保護区における捕獲では、誘引期間に中々餌付かず、誘引期間を延長したが自動撮影カメラでは餌を食べているところは撮影されなかった。また、周囲は、ヒグマ生息場所であり頻繁ではないが、近くの道路は人の出入り（林業者・ダム管理者）があるため、誘引力のある餌の使用を控えた。また、ヒグマ生息場所ということもあり、周辺利用者からは捕獲個体回収の要望があり原則回収したが、場所によっては回収に2時間要したものがあり、効率的な捕獲を目指す上で課題。

#### 4. 全体評価

雨竜沼湿原における捕獲作業で、昨年度の1番の反省点であった、捕獲期間の見直しについて、年度開始前より調整を行い、湿原内をシカが利用する時期に作業を実施し、捕獲に繋げることが出来た。また、捕獲した個体へのGPS首輪装着により、今後の個体の動向を観察し越冬地での個体数調整捕獲へ進めることができた。効率的な捕獲にはほど遠いが、反省を生かし課題解決に向けて事業を進めていくことが出来た。

オシラリカ鳥獣保護区における捕獲では、令和3年度調査を生かし今後の被害防止のために捕獲へ移行することが出来たが、地元からの情報よりも捕獲作業において確認できたエゾシカの数は少なく捕獲のチャンスも少なかったことから、客観的データの重要性を痛感した。

※「改善点」の欄には、評価結果を次期の指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画にどう反映するか等について記入する。

#### ○第二種特定鳥獣管理計画の目標に対する、本事業の寄与状況について

市町村による許可捕獲（有害駆除）等が実施されていない箇所を実施したことにより、生物多様性への影響の軽減、周辺地域の農林業被害及び市街地への出没を軽減させるほか、エゾシカの逃避地を作らせないことによる地域全体の捕獲効率向上を期待している。

今後は、取り付けたGPSデータを基に、移動ルートを把握し、特定した越冬地において捕獲を実施することで、より効果的かつ効率的なエゾシカ対策の推進を検討していく予定。

#### 4. 必須となる記録項目

(1) データの整備状況

ア) 基礎となる記録項目の整備状況

指定管理鳥獣捕獲等事業において整備している情報の項目にチェックをつける。

項目	整備状況	備考
①捕獲数・目撃数・捕獲努力量等の位置情報	<input checked="" type="checkbox"/> 行政区域（都道府県・市町村）ごと <input checked="" type="checkbox"/> 事業区域ごと <input checked="" type="checkbox"/> 5kmメッシュ <input type="checkbox"/> 1kmメッシュ <input type="checkbox"/> 捕獲地点（緯度経度） <input type="checkbox"/> 捕獲等に関する位置を記録していない	
②捕獲数	<input checked="" type="checkbox"/> 捕獲した個体の総数 <input checked="" type="checkbox"/> 雌雄の別 <input checked="" type="checkbox"/> 幼獣・成獣の別 <input type="checkbox"/> その他捕獲した個体に関する情報 ( )	
③目撃数	<input checked="" type="checkbox"/> 作業の従事者が目撃した個体の総数	
④捕獲努力量	<input checked="" type="checkbox"/> 銃猟：のべ作業人日数※ <input checked="" type="checkbox"/> わな猟：わな稼働日数 (わな稼働日数=わな基数×稼働日数)	

※のべ作業人日：捕獲作業期間中に捕獲に従事した作業人数の合計。事前調査や下見に費やした作業の人日数は除く。

イ) 捕獲に関する概況地図の作成の可否

	作成できる概況図（地図）※についてチェック
捕獲位置の地図	<input checked="" type="checkbox"/> 5kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 1kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 地点（緯度経度）地図 <input type="checkbox"/> 捕獲位置の地図を作成できない
CPUEの地図	<input checked="" type="checkbox"/> 5kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 1kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 地点（緯度経度）地図 <input type="checkbox"/> CPUEの地図を作成できない
SPUEの地図	<input checked="" type="checkbox"/> 5kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 1kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 地点（緯度経度）地図 <input type="checkbox"/> SPUEの地図を作成できない
概況図を作成する上での課題	特になし

※概況図は原則として添付する。添付できない場合は「作成できない」をチェックする。

(2) 実施結果（必須となる記録項目）

ア) 捕獲努力量に関する事項

①銃器による捕獲

外業の人日数総数※1： 19 人日

事前調査人日数概数※2： 2 人日

出猟（捕獲作業）人日数： 17 人日

項目	令和5年 (事業年度の値)	令和4年 (前年度の値)	増減の傾向
捕獲努力量（銃猟） のべ人日数	19 人日	22 人日	<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 減少

※1:事前調査人日数概数と出猟（捕獲作業）日数の合計

※2:事前調査人日数概数は、捕獲作業直前の下見・調査を含まない。

②わなによる捕獲

外業の人日数総数※1： 38 人日

事前調査人日数概数※2： 2 人日

出猟（捕獲作業）人日数： 36 人日

項目	令和5年 (事業年度の値)	令和4年 (前年度の値)	増減の傾向
捕獲努力量（わな猟） わなの稼働総数（わな基 ×日数）	74 基日	48 基日	<input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

※1:事前調査人日数概数と出猟（捕獲作業）人日数の合計

※2:事前調査人日数概数は、捕獲作業直前の下見・調査を含まない。4

イ) 捕獲に関する結果

①銃器による捕獲

項目	令和5年 (事業年度の値)	令和4年 (前年度の値)	増減の傾向
① 捕獲数	2 頭	0 頭	<input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
② 目撃数	11 頭	4 頭	<input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
③ 雌雄比 (雌捕獲数/全捕獲数)	1	0	<input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
④ 幼獣・成獣比 (幼獣数/全捕獲数)	0	0	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

令和5年度指定管理鳥獣捕獲等事業における捕獲手法別（銃器）の捕獲実績

捕獲手法	捕獲実績	作業人日数※1	CPUE※2	SPUE※3
------	------	---------	--------	--------

<input type="checkbox"/> 誘引狙撃	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> 巻き狩り	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input checked="" type="checkbox"/> 忍び猟	2 頭	9 人日	0.22 頭/人日 <input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	0.89 頭/人日 <input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input checked="" type="checkbox"/> モバイルカリング	0 頭	5 人日	0 頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	0 頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> 夜間銃猟	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> その他 ( )	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

※1：作業日数には捕獲を実施していない誘引期間は含まない。

※2：CPUE＝捕獲数／のべ人日数

※3：SPUE＝目撃数／のべ人日数

※CPUE、SPUE は前年度の指定管理鳥獣捕獲等事業と比較して、「増加」「減少」をチェックする。

### ③ わなによる捕獲

項目	令和5年 (事業年度の値)	令和4年 (前年度の値)	増減の傾向
① 捕獲数	1 頭	0 頭	<input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
② 雌雄比 (雌捕獲数／全捕獲数)	1	0	<input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
③ 幼獣・成獣比 (幼獣数／全捕獲数)	0	0	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

### 令和5年度指定管理鳥獣捕獲等事業における捕獲手法別（わな）の捕獲実績

捕獲手法	捕獲実績	わな稼働総数※1	CPUE※2
<input type="checkbox"/> くくりわな	頭	基日	頭/基日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> 箱わな	頭	基日	頭/基日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input checked="" type="checkbox"/> 囲いわな	1 頭	8 基日	0.125 頭/基日 <input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> その他	頭	基日	頭/基日

( )		<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
-----	--	---------------------------------------------------------

※1:わな稼働総数には捕獲を実施していない誘因期間は含まない。

※2:CPUE=捕獲数/わな稼働日数

※CPUE、SPUE は前年度の指定管理鳥獣捕獲等事業と比較して、「増加」「減少」をチェックする。

#### エ) 捕獲個体の適切な処理

処理にかかる人工概数： 6人・時間

処理した個体のうち、食肉等への活用した個体の数量概数： 2個体

##### 適正な捕獲が実施されたかを確認する手法

実施日時を作業日報に記載するとともに、捕獲個体毎に捕獲個体記録票を作成し、生体で捕獲した個体については、捕獲頭数がわかるように捕獲時の全景等を含めて撮影した写真を添付させ、捕獲情報を報告することとしている。

捕獲した個体の処理については、発注段階から受入予定先を明記し、受託者が有効活用事業者と調整しながら捕獲事業を実施することとしており、納入結果についても報告させている。